わらびじゅく 笑楽日塾だより

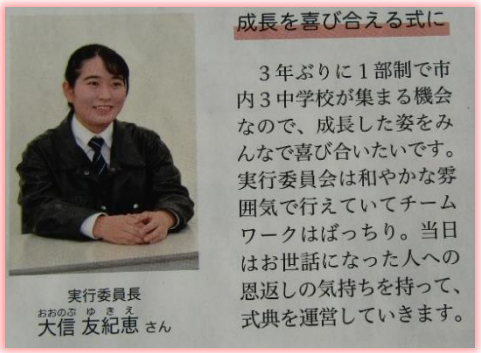
２０２３年１月号
２０２３．１．３１
第５９号
発行：笑楽日塾（わらびじゅく）

笑楽日塾はＳＤＧｓを応援します。

・荒井塾長あいさつ

あれから 14 年 あの子たちは大人になった

今年、令和 5 年の成年式には特別の感慨を覚えた。「あの子たちが成人か！」その子たちと出会ったのは 14 年前の事だった。50 年間務めた会社を 15 年前、2008 年 3 月に退職して、これから少しでも地域貢献、社会貢献を生き甲斐の中へ組み入れようと考えていたとき、「パソコン支援隊」で知り合った人から中央小学校の「放課後子ども教室」を手伝って欲しいと依頼があった。


成長を喜び合える式に

３年ぶりに１部制で市内３中学校が集まる機会なので、成長した姿をみんなで喜び合いたいです。実行委員会は和やかな雰囲気で行えていてチームワークはばっちり。当日はお世話になった人への恩返しの気持ちを持って、式典を運営していきます。

実行委員長
大信（おおのぶ） 友紀恵（ゆきえ） さん

そこで元気いっぱいの 1 年生と出会った。放課後子ども教室は毎週月曜日午後に開催される。勉強を少し、あとは校庭で子ども達と野球やサッカー、ドッジボール、縄跳び、鉄棒、鬼ごっこなど何でもありだ。

子ども達はよく喧嘩もしていた。相川智希、木村健太、石井茂、大信友紀恵、永島優衣、ケビン・・・その子たちが今年、成人になったのだ。蕨の成年式を企画・運営するのは 14 人の実行委員の皆さんで、昨年 10 月から準備を重ねてきた。式典では実行委員による「青年の主張」や「20 歳の誓い」が発表された。

実行委員長は大信友紀恵さんでした。大信友紀恵さんは、大学に行きながら、時間のあるときは「放課後子ども教室」や中央小の「土曜塾」を手伝っています。相川君は「わらてつまつり」をず～と手伝ってくれている。ケビンは偶に通学途中で挨拶してくれる。

20歳の門出
満面の笑み
「成人式発祥の地」蕨

式典を終えて記念撮影をする出席者たち＝9日

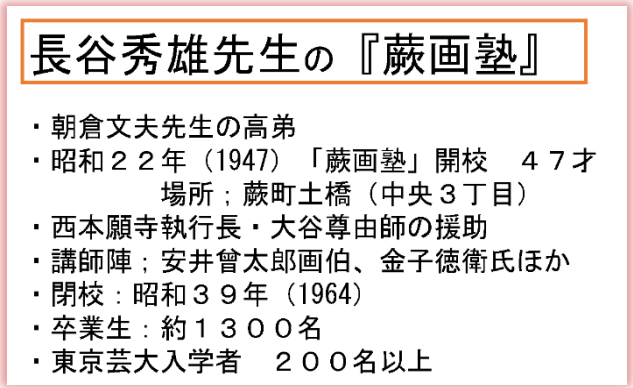
蕨の成年式は昭和 23 年に「成人の日」が国民の祝日として制定される 2 年前から実施された。終戦の翌年、昭和 21 年だった。その最初の人たちの中に、蕨工場の先輩がおられたことが、7～8 年前の広報 WARABI で紹介された事があった。

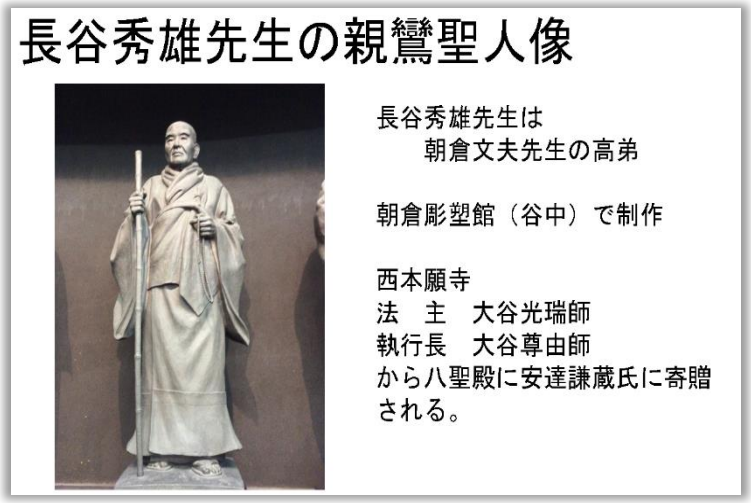
あの子たちが成人した。俺は顔には老醜が染み出ているがまだ元気だ。もう一度 20 歳に戻れたらなーと欲張っている。今も 1 年生、2 年生、3 年生の子ども達と校庭で遊んでいるこの子ども達が成年式を迎える頃まで元気にいたいなー、しかし、20 年後は、俺は 103 歳だ。
ヨタヨタ　ヨボヨボ　ヨロヨロしているのかな。ハタチっていいな。　　完

「報告事項」

1.　笑楽日塾1月 Zoomオンライン塾会報告

今月は
清藤隆さんの講座「長谷秀雄先生の作品を訪ねて」の紹介と歴史のお話が
ありましたのでご報告致します。





清藤さんよりの「まとめ」のお話

長谷秀雄先生の作品「若き日」に出逢った時は蕨市の文化の薫りが感じられ、制作された長谷先生の他の作品にも触れてみたいと思い、とりまとめました。

いろいろ調べますと高名な先生で、横浜八聖殿に西本願寺法主、執行長様から寄贈された「親鸞聖人像」が安置されていました。

令和4年晩秋、金沢文庫の「運慶」展に合わせて訪ねることが実現し、1 メートル80センチの「親鸞聖人像」と同じ高さの聖人にもお会いでき感動し、あらためて制作された長谷先生、諸先生には感謝の念でいっぱいになりました。以上、ご報告をいたします。 ご清聴ありがとうございました。

完

「シニアの風」

（順番制で行います。2023年2月「シニアの風」投稿は　髙木　輝雄さんです）

座右の書について　　新井　斉

意味の1つ目は「いつでも内容が参照できる様に、手元に置いておく本のこと」。2つ目は「自分にとって人生の参考になったり、悩んだ時に励みになる本のこと」と言われています。

今年の干支、兎年は個人事務所を立ち上げ干支がひと廻りした記念の年になります。事務所を立ち上げた２年目に業務展開の不安と思考錯誤の末に業務指向に迷った時、相談した先輩が一冊の書を紹介してくれました。この書は、三木建（経営学者）著の「日本の輪郭　社会の質とアイデンティティ」です。
＊2011 年 5 月 28 日初版第 1 刷発行

この時、先輩曰く「一日で読み終え、一年じっくり考える本だ」、そして少し笑顔で「まあ～読んでみろ～お前には干支ひと廻りが丁度良いだろう」と呟き咳払いをしました。此の書が私の「座右の書」になっています。
コンサルティング業は、時として自分を見失い自己満足と我が儘とそして自己中心の正論ありきの論理展開に陥りやすくなります。何故か、先輩の言葉とおりに毎年の様に、其れが正しい選択だったのか干支がひと廻りした最近も自己問答する事態に直面しています。

其れは、昨年の初夏に設計監理コンサルティング業務が総会の承認決議を経て契約締結に至った業務です。当初は順調に推移していましたが、徐々にボタンを掛け違えている感が拭えなくなり、意見の衝突を繰り返すようなり業務進行が後戻りする場面が現れてきたのです。

業務遂行と指針の修正を試みましたが、自己を誤魔化すように感じるとともに「自己中心の正論ありきの論理展開」を先方に押し付けた感が強すぎたと思いますが、結果として昨年末に「劣化診断調査報告書、設計コンセプト説明書、工事仕様書、設計内訳明細書」等を提出し業務報酬の請求権を放棄したうえで、契約締結日に遡って契約解除を先方に通知しました。然しこの結末に罪悪感も無く後悔感を覚えない処か、逆に清々しい思いとともに成果物を提出した満足感があります。

今、先輩から紹介された書を読み返しています。「出会いや縁が次の出会いや縁を広げていき、見合った縁が紹介でき容易に繋がる縁でなく積み重ねの縁を大切にする」と思う年初です。
先ずは「瞬間湯沸し器」のボタンから手を放すことに努めなければ行けませんね。（反省の弁・・・）
塾生の皆様、本年も宜しくお願い申し上げます。

完

編集後記

八木　守

十牛図　5段階
牧牛（ぼくぎゅう）

　2023年1月もシニアにとっては、あっと言う間に過ぎ去って行きます。今年もラニーニャ現象で厳しい冬が東北地方は訪れており、お風呂場などでは寒暖差に気をつけて脱衣所に小型ヒーターなど置いてヒートショック対策など行い、寒い冬を元気に乗り切りましょう。

　さて、十牛図も今回で丁度、半分の5回目です。
今回は12月号の続きで今、作成中の「十牛図」の第5段階・牧牛（ぼくぎゅう）の挿絵（水墨画）と第4段階・得牛からの続きをお話したいと思います。

第5段階　牧牛（ぼくぎゅう）：牛をつかまえる。
　前回までのおさらいです。
第1図「尋牛（じんぎゅう）」では、「自分の幸せや目標とは何か」を考えはじめ、探求の旅に出ました。
第2図「見跡（けんせき）」では、その手がかりを見つけました。
第3図「見牛（けんぎゅう）」のところで、その目標がはっきりと姿を現しました。
第4図「得牛（とくぎゅう）」目標に向けて行動を起こし始めました。

　さて、今回は第5図「牧牛（ぼくぎゅう）」を見ていきます。牧牛とは、「牛を飼いならす」という意味です。 牛とは、自分自身のことでした。自分にとっての幸せや、こうなりたいという目標をあらわしています。厳しい修行の結果、妄想を絶ち切り、煩悩を脱して、ようやく飼いならすことができました。
　しかし、一度捕まえたからといって「悟った！」と油断してはなりません。飼いならし続けるには、常に鞭を打って戒めなければなりません。ひたすら心牛のことだけを想い、十分に飼いならした結果、牛の方から自分のところに近づいてきました。

　ここまできたら欲にまみれた俗世間の中にいても染まることはありません。つまずきながらも一人歩きできるようになり、どのような事態にも笑殺できるようになりました。真理と自己を一つにできた段階です。「客観的に知っている」という段階から脱却して、真理と一体になり始めたわけです。
　ここまできたら悟りの境地に一歩足を踏み入れた、という感じでしょうか？・・・・・

　それでもまだ図は半分なのですね。つまり、自分自身を飼いならすとは、自分のことを本当に知る、自分の知らない自分に気づく、ということです。 人は、日々の生活のなかで、さまざまなことを学びます。しかし、その学んだ知識や、つみ重ねた経験があればあるほど、自分の目指すものが本当にそれでよいのか、生きているかぎり、不安や悩みはついてくるものです。大切なのは、「できるか、できないか」ではなく、「そうなりたい」と思う気持ちかもしれませんね。
　次回は第6段階 「騎牛帰家（きぎゅうきか）牛に乗って家に帰る」をお届けします。　　～続く～